

理事長ご挨拶

公益財団法人肥後医育振興会

理事長 松下 修 三



肥後医育振興会の活動にご支援をいただきありがとうございます。昨年、肥後医育振興会の運営を引き継ぎ、新しい理事・評議員の皆様の協力を得て、多くの関係者の皆様の努力によって得られた成果をニューズレターとしてご報告いたします。肥後医育振興会は創立から29周年となります。本会はこれまで、高度化、複雑化する医療について、県民に対する正しい情報の提供のための講演会の開催や情報誌への寄稿、さらに次世代の医療者の育成についての諸課題を共有し、ネットワークを作るための医療人育成総合会議、さらに若手の医療者の表彰など、様々な活動を行ってまいりました。一方、この間、地球温暖化や18歳人口の減少など、社会を取り巻く課題が明確となり、医療や福祉・介護のありかたも、そしてこれを担う医療人育成も未来を見据えた新たな取り組みが求められています。肥後医育振興会の使命も発足当時からの課題に加えて、安全安心な地域社会が持続可能であるために、どのような取り組みが可能か、地域の関係者とともに未来に向けたビジョンを語り合うプラットフォームとしての位置づけが強くなってきました。特に、医療人育成総合会議では、前副理事長の山本先生の発案で、令和4年度は「カーボンニュートラル化社会と医療人育成」、令和5年度は「医療機関における働き方改革と医療人育成」、令和6年度は「18歳人口激減下の医療人育成」と社会的テーマを扱ってきました。これらの総合会議には、様々な職種の医療従事者に加えて、これを担う当事者である学生や若手医療従事者の参加も得ております。

新型コロナウイルス感染症は5類に分類され、パンデミックは終わったかのように対応されていますが、少なくともコロナ禍が我々に問いかけたことを、もう一度考え直す必要があると思います。我々が知らないウイルスなどの未知の病原体は数えきれないほど存在していると考えられます。地球上の生態系は十分に理解されているとは言えませんが、これらの病原体は、ヒトの生活から隔離された場所で、生態系の一部を担うに過ぎない存在だったのではないかと思います。しかしながら、地球温暖化、人口増加によるヒトの居住

地域の拡大などをきっかけとして人類への感染性を獲得し、経済のグローバル化とともに世界中に拡大しました。感染症に関しては、古典的な疫病対策から、科学的研究に基盤を置いた感染対策に切り替えていく必要があります。現在の人の仕事の多くが、未来ではAIがするようになるといわれていますが、情報の乏しい未知の病原体に対する対策についてAIは無効だと思います。実際、5類感染症になった最近のコロナ変異株の蔓延を抑えるワクチンができていないのは、新型コロナウイルスの免疫逃避をAIが予測できないからです。

医学研究の推進に加えて、多様な人々が安心して生活できる社会が求められています。SNSやITの発達によって、次世代は、ますます多様化の時代になり、従来の日本文化から逸脱するような人々も増えると思います。我々は、多様な隣人を排除せずお互いを尊重する地域社会を目指すべきです。もとより、医療・福祉・介護の担当者は、自分とは違う人々を人として尊重することを学んでいきますので、このような未来の地域社会構築のリーダーになりうるのではないかと思います。今後とも、肥後医育振興会への変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

